

菊川市埋蔵文化財報告書第8集

市内遺跡確認調査報告書

2007年3月

菊川市教育委員会

例 言

1. 本書は平成18年度に実施した、市内遺跡の開発事業に係わる埋蔵文化財確認調査の概要をまとめたものである。
2. 調査にかかる費用は、国庫補助金を受け国1/2、県1/4、町1/4で負担した。
3. 調査は、下記の体制で実施した。

調査主体	菊川市教育委員会		
調査担当	社会教育課		
	社会教育課長	横山	静雄
	社会教育係長	樽松	康之
	社会教育係主任主査	齊藤	政巳
	〃 主事	高木	淳
	〃 主査	泉	敬秀
	室内整理員	鈴木玲子	江川きよ子
	現場作業員	織部節子	伊藤初恵 堀内初代 三ツ井しの
		三浦幸子	黒田文江 伊藤せつ子 植山としゑ
4. 本書の執筆・編集は、高木が担当した。
5. 本書は、試掘調査も含め確認調査として記述している。
6. 本書で報告した実測図・写真及び出土遺物は、菊川市教育委員会で保管している。

目次

I.	平成18年度の埋蔵文化財	1
II.	確認調査成果	
	① 鹿島打上遺跡	3
	② 横地城下遺跡群（五郎兵衛遺跡）	4
	③・⑫・⑰ 周知外長池遺跡	5
	④ 堀田東遺跡	8
	⑤ 白岩遺跡	8
	⑦ 周知外白岩段Ⅱ遺跡	9
	⑧ 周知外横地城跡	9
	⑥・⑭ 段平尾Ⅱ遺跡	10
	⑨ 潮海寺門前町遺跡群	12
	⑩ 西軒遺跡	13
	⑪ 上ノ段遺跡	15
	⑮ 三沢西原遺跡	14
	⑯ 周知外赤土政所遺跡	20
	⑱ 宮ノ西遺跡	21

挿表目次

第1表	平成18年度確認調査一覧表	1
第2表	確認調査による遺物一覧表	24

挿図目次

第1図	確認調査位置図	2	第13図	潮海寺門前町遺跡群調査区平面図	12
第2図	鹿島打上遺跡位置図	3	第14図	潮海寺門前町遺跡群調査位置図	12
第3図	横地城下遺跡群位置図	4	第15図	権左衛門遺跡位置図	13
第4図	横地城下遺跡群土層図	4	第16図	上ノ段遺跡位置図	13
第5図	長池橋遺跡調査区位置図	6	第17図	三沢西原遺跡配置図	15
第6図	長池橋遺跡土層図	7	第18図	三沢西原遺跡調査区1・3トレンチ平面図	16
第7図	堀田東遺跡位置図	8	第19図	三沢西原遺跡調査区4～10トレンチ平面図	17
第8図	白岩遺跡位置図	8	第20図	周知外赤土政所遺跡位置図	20
第9図	周知外白岩段Ⅱ遺跡位置図	9	第21図	周知外赤土政所遺跡調査区平面図	20
第10図	周知外横地城跡位置図	9	第22図	宮ノ西遺跡位置図	22
第11図	段平尾Ⅱ遺跡位置図	10	第23図	宮ノ西遺跡調査区平面図	23
第12図	段平尾Ⅱ遺跡調査区平面図	11			

I. 埋蔵文化財

菊川市内での対象遺跡は旧小笠・菊川両町の合併により300箇所以上を数え、文化財保護のため開発との調整が重要となってきている。本年度は、一般開発による文化財有無の受付は67件あり、そのうち埋蔵文化財に該当するものが17件あり、確認調査の対象となったものは6件であった。一般開発で埋蔵文化財となったものの内訳は、個人住宅建築が11件、共同住宅建設が2件、携帯電話基地局が3件、不動産鑑定1件で住宅の整備を中心に開発が活発であることが窺える。一般開発による確認調査を行った遺跡は、個人住宅の建築や宅地造成に伴うものが、鹿島打上遺跡、横地城下遺跡群、周知外長池橋遺跡、白岩遺跡及び段平尾Ⅱ遺跡の5件、宅地造成に伴うものが潮海寺門前町遺跡群の1件、共同住宅建設に伴うものが権左衛門遺跡及び周知外赤土政所遺跡の2件、携帯基地局建設に伴うものが横地城跡、上ノ段遺跡の2件で計11件である。

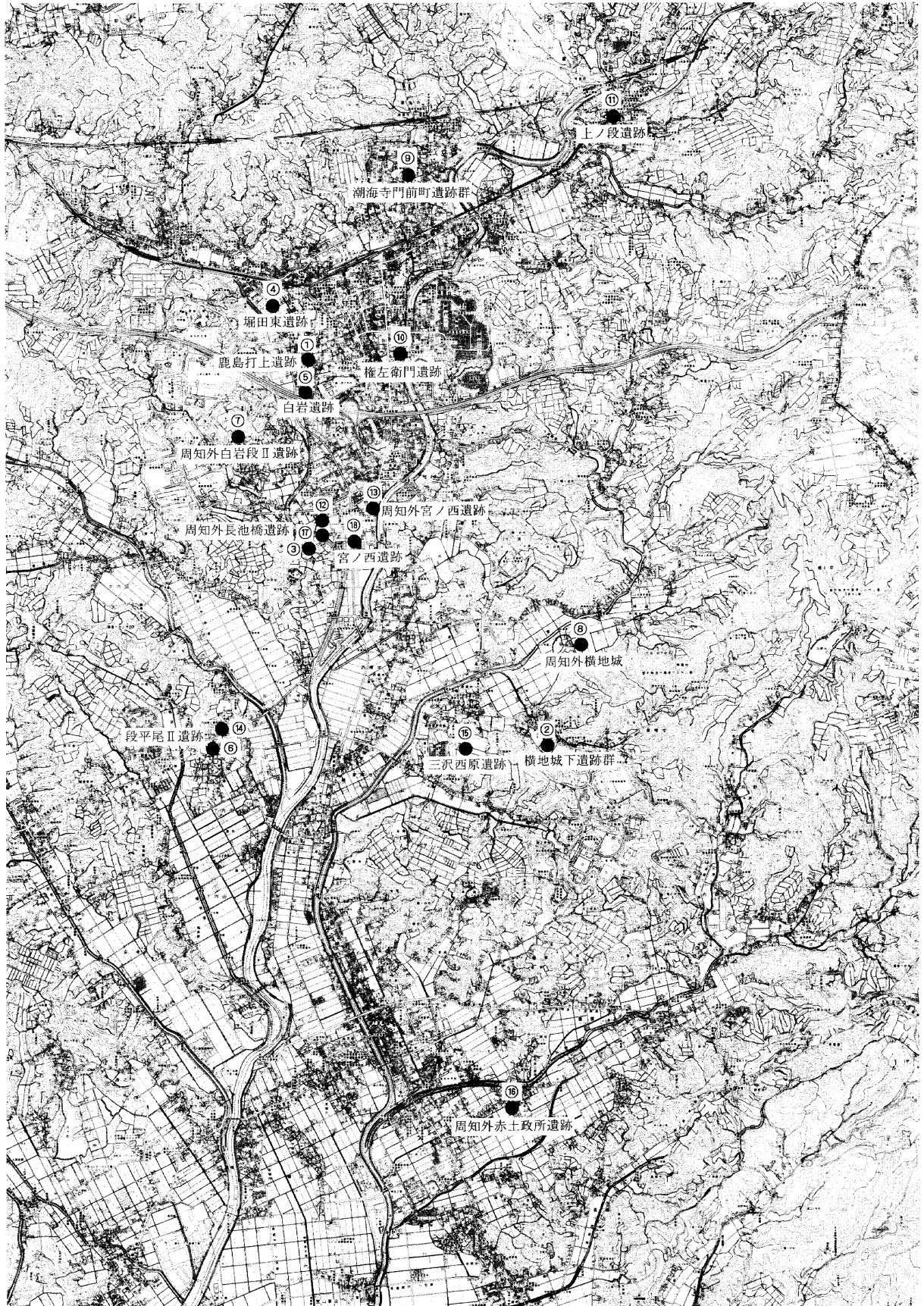
公共事業では耐震型貯水槽設置、道路改良など各種開発が計画されたが、確認調査の対象となったのは耐震型貯水槽設置に伴う段平尾Ⅱ遺跡、周知外白岩段Ⅱ遺跡、区画整理事業に伴う周知外宮ノ西遺跡、周知外長池橋遺跡、農道整備工事に伴う三沢西原遺跡の5件6箇所であった。

以上の結果、農地転用や土地利用委員会では168件の内、36件が埋蔵文化財の対象となり、そのうち堀田東遺跡と宮ノ西遺跡の2件で確認調査を実施した。

全体では第1表のとおり18箇所の確認調査を実施した。調査の成果については以下のとおり報告する。また、確認調査地点は第1図のとおりである。

第1表 確認調査一覧表

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	現況	面積(m ²)	調査期間	事業目的
①	68	鹿島打上遺跡	半済字1418-2	丘陵	宅地	12	H18.6.29	住宅建築に伴う調査
②	209	横地城下遺跡群	東横地2757	沖積地	宅地	6	H18.7.12	住宅建築に伴う調査
③	218	周知外長池橋遺跡	加茂3635-1	沖積地	宅地	8	H18.7.28	住宅建築に伴う調査
④	222	堀田東遺跡	西方1160-1	沖積地	宅地	6	H18.8.11	宅地造成に伴う調査
⑤	83	白岩遺跡	加茂120-2	沖積地	宅地	6	H18.9.21	住宅建築に伴う調査
⑦	160	段平尾Ⅱ遺跡	中内田4770他	丘陵	道路敷	10	H18.10.12	地下貯水槽設置に伴う調査
⑧	112	白岩段Ⅱ遺跡	加茂944	丘陵	境内地	6	H18.10.19	地下貯水槽設置に伴う調査
⑥	192	横地城跡	東横地4227	丘陵	畑	6	H18.10.25	携帯基地局設置に伴う調査
⑨	214	潮海寺門前町遺跡群	潮海寺2715-11他	丘陵	宅地	6	H18.10.26	宅地造成に伴う調査
⑩	48	権左衛門遺跡	朝日2-1他	沖積地	畑	6	H18.10.27	共同住宅建設に伴う調査
⑪	31	上ノ段遺跡	吉沢540-2	丘陵	畑	6	H18.11.1	携帯基地局設置に伴う調査
⑫	218	周知外長池橋遺跡	加茂4295	沖積地	田	45	H18.11.16	区画整理地内の道路築造に伴う調査
⑬	205	周知外宮ノ西遺跡	加茂2429-5他	沖積地	駐車場	6	H18.11.24	区画整理地内の道路築造に伴う調査
⑭	160	段平尾Ⅱ遺跡	中内田4779	丘陵	宅地	9	H18.12.19	住宅建築に伴う調査
⑮	179	三沢西原遺跡	三沢2579-2他	丘陵	畑	63	H18.12.20 ~H19.2.18	農道整備に伴う調査
⑯	283	周知外赤土政所遺跡	赤土496他	沖積地	田	18	H19.1.19	共同住宅建設に伴う調査
⑰	218	周知外長池橋遺跡	加茂3399他	沖積地	畑	12	H19.2.20,21	区画整理地内の道路築造に伴う調査
⑱	205	宮ノ西遺跡	加茂2768他	沖積地	宅地	12	H19.2.7	農地転用に伴う調査



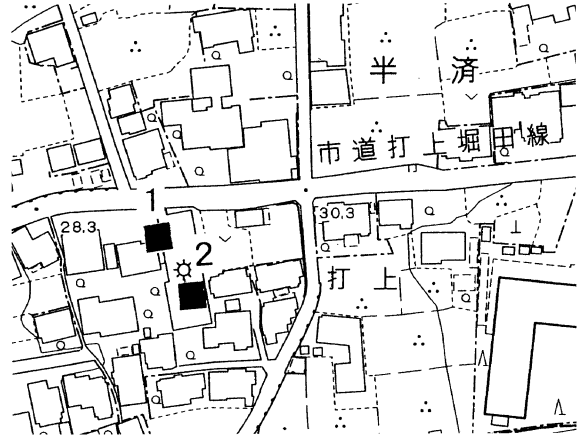
第1図 確認調査位置図

Ⅱ. 確認調査成果

①鹿島打上遺跡

(1) 立地と現況

鹿島打上遺跡は、菊川市半済字打上に所在し、高田ヶ原丘陵の平坦部に立地する。調査地は丘陵の南端にあたる。遺跡周辺の丘陵上には大徳寺古墳や鹿島打上古墳を中心に古墳群が分布し、調査地のある平坦部には集落跡も確認されている。丘陵の西側を流れる西方川沿いの沖積平野は白岩式土器で名高い白岩遺跡をはじめ、弥生時代から古墳時代かけての遺跡が広がる一帯である。調査地区の現況は、工場跡地が整地されているが、周辺は住宅と茶畑が混在する。



第2図 位置図

(2) 調査成果

調査は開発予定地内の北側の私道部（1トレンチ）と南側の宅地部（2トレンチ）にそれぞれ幅2mで調査区を2箇所設定し、重機と人力で実施した。調査は表土重機で除去した後に層位を確認しながら人力と重機による掘削を行った。1トレンチでは、およそ30cmの盛り土の下に旧表土が20～30cmほど堆積しており、その下の黒褐色土層（黒ボク土）が包含層となる。包含層からは土器と鉄製品が出土したが、遺構は確認されなかった。2トレンチの層位も私道部と変化はないが、盛り土が100cmと厚くなっており、丘陵が調査地付近から南に大きく傾斜していることも考えられる。2トレンチからは遺物や遺構は確認されなかった。

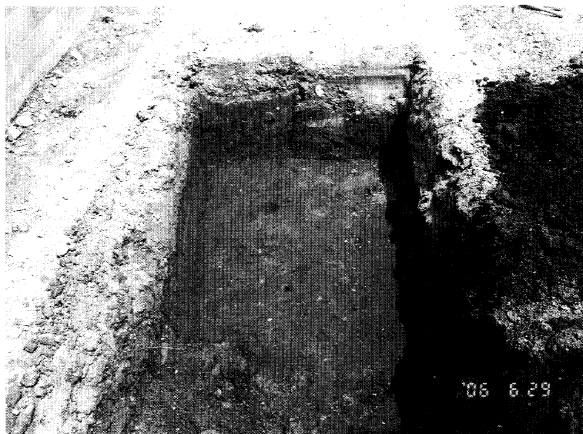
以上のことから、この地点にも遺跡が広がっていることが確認されたが、遺構、遺物の分布は希薄であった。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第120号 平成18年6月30日付

○埋蔵文化財発掘調査の通知 93条の1 平成18年8月18日付

○土木工事等のための発掘に係る指示 教文第917号 平成18年8月22日付 立会調査



1 トレンチ完掘



2 トレンチ完掘

②横地城下遺跡群（五郎兵衛遺跡）

（1）立地と現況

横地城下遺跡群（五郎兵衛遺跡）は、菊川市東横地地内に所在し、丘陵にはさまれた谷間の平野部に立地する。調査地の現況は宅地となっており、周辺には水田が広がる。調査地周辺は国指定史跡横地城の五郎兵衛地区に指定されており、過去の調査では谷地形を利用した溝で区画される中世の居住空間が確認された。

今回の調査は、個人住宅増築に伴うものである。

（2）調査成果

浄化槽設置予定箇所に幅2m×1mの大きさでトレンチを設定し、表土を重機により除去したのちに人力で掘削・精査した。調査の結果、現在の宅地造成による盛り土が80～100cmを測る。盛り土の下に旧耕作面（水田）がみられ、その下層には炭化物が少量含まれる。今回は浄化槽を埋設する200cmの深さまで掘り下げたが遺構や遺物は確認されなかった。

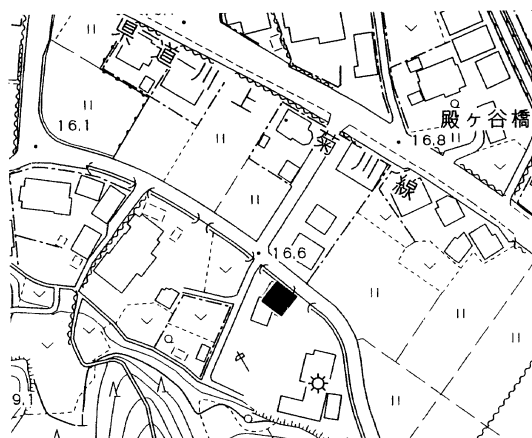
以上の結果と周辺での調査結果を踏まえると、調査地点は旧流路線とみられ、現在の地表面から5m程下までがかつての流路であったと考えられる。

（3）事務文書

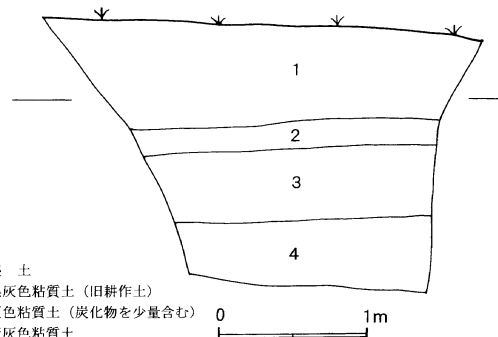
○確認調査結果 菊教社第144号 平成18年7月13日付

○史跡、名勝、天然記念物の現状変更許可について 平成18年11月27日付

○史跡、名勝、天然記念物の現状変更について（通知） 教文第2199号 平成19年2月23日付



第3図 位置図



第4図 土層図



調査区完掘

③・⑫・⑰周知外長池橋遺跡

(1) 立地と現況

長池橋遺跡は、菊川市加茂字長池の平野部に位置し、西方川が形成した沖積地に南北に広がる。遺跡西の丘陵上には長池古墳群をはじめとする古墳群が築かれ、東には西方川を挟んで宮ノ西遺跡が展開する。遺跡周辺は水田の中に宅地が点在するが、西方川対岸で進展中の宮の西土地区画整理事業により、共同住宅建設などの開発が活発になっている。

今年度は③地点個人住宅建築に伴う試掘調査（1トレンチ）及び⑫・⑰1 地点区画整理事業に伴う試掘調査5件（⑫地点2～4、⑰地点5・6）を行った。現況は、1トレンチは畑地、2～4トレンチは水田、5・6トレンチは茶畑となっている。



調査風景

(2) 調査成果

1トレンチ周辺は水田が埋め立てられており、南側3分の1程度が畑として利用されている。埋立地の残りの部分が住宅建築予定地となっている。調査区は敷地の中央付近に2m×3mの規模で設定した。盛土の深さは100cmで、その下に旧耕作土が30～40cm堆積している。旧耕作土の下から土器が数点出土したが、遺構は確認されなかった。



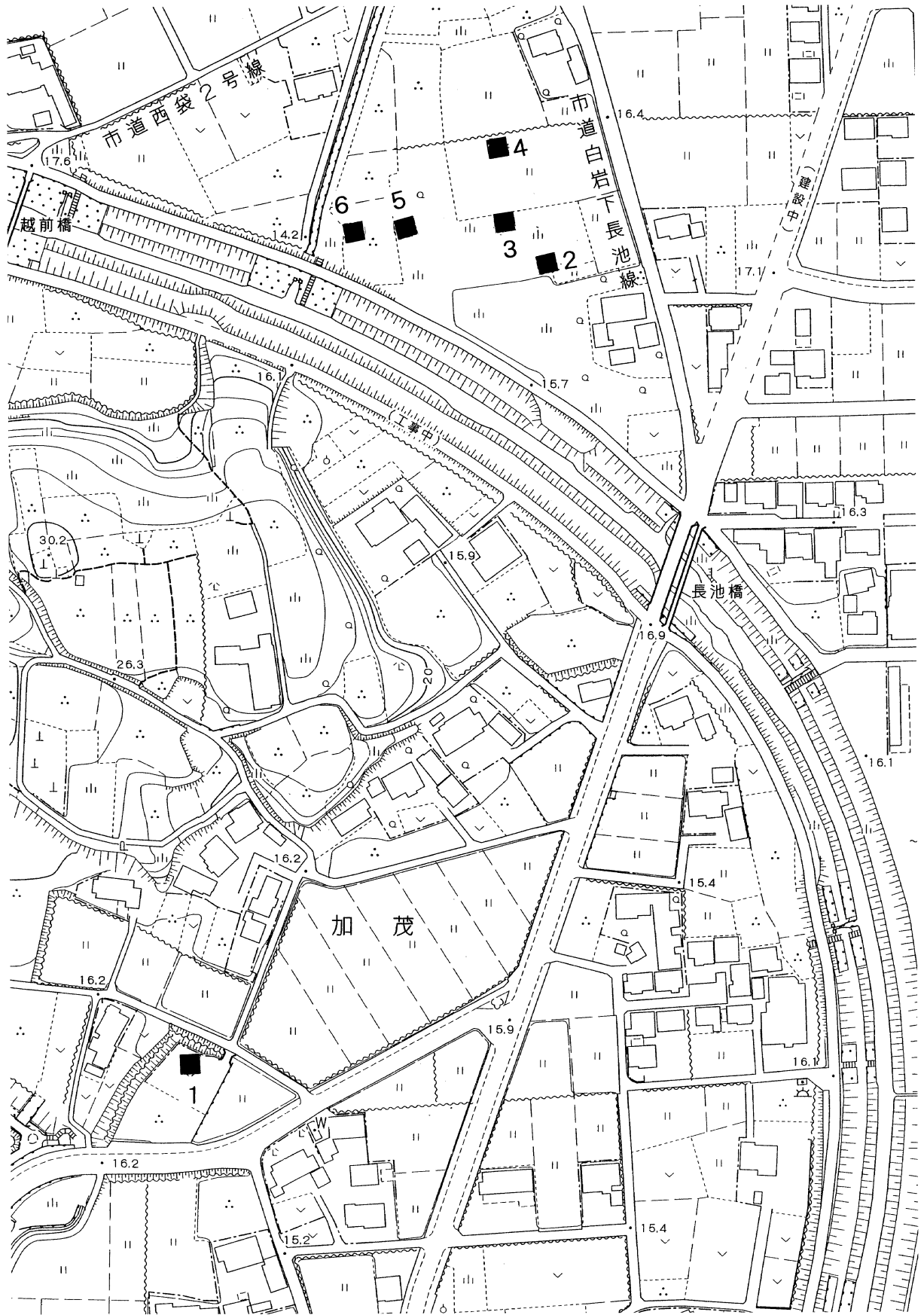
⑰地点調査区完掘

2～6トレンチは宮の西土地区画整理事業に伴う試掘調査で、道路の新設によるものである。2トレンチでは、南北方向に3m×10mの調査区を設定した。耕作土の下に4層確認されたが遺構・遺物は確認されなかった。3トレンチでは灰黄褐色粘質土の下層での溝状遺構が確認され、覆土から土器が1点出土した。4トレンチの調査区は3m×3mで耕作土の下層に後世の攪乱が見られ、遺構・遺物は確認されなかった。5トレンチは3m×3mの調査区を設定した。表土の下に灰茶褐色土と黄褐色土が合わせて80cmほど堆積している。6トレンチは3m×3mの調査区を設定した。旧耕作土のおよそ100cm下に安定した黄褐色粘質土層が見られる。1 地点ともに遺構及び遺物は確認されなかった。

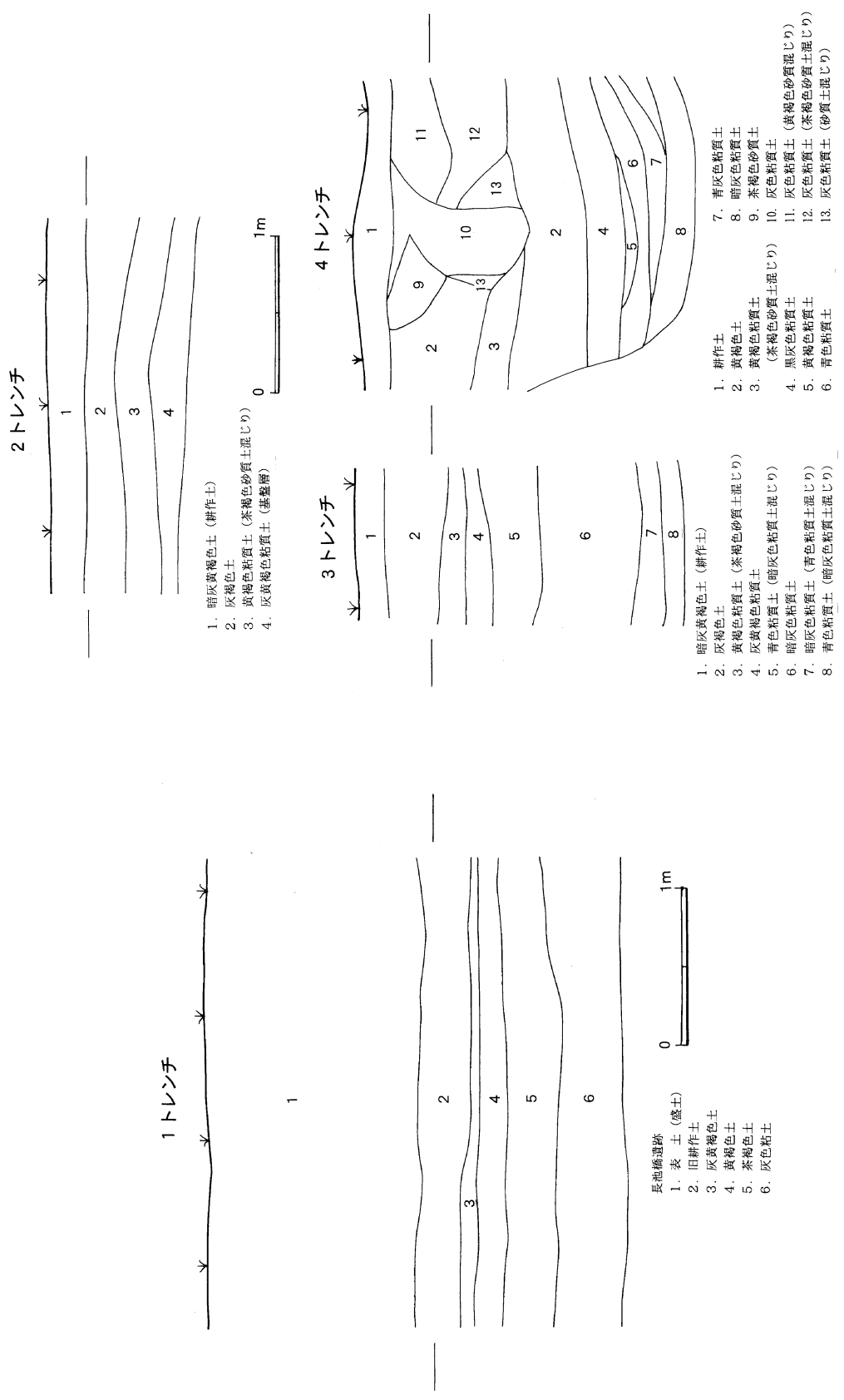
以上のとおり、今回の調査では③地点では遺物が出土しているものの遺構は確認されず、分布状況は希薄であると考えられる。一方、⑫・⑰地点で遺構・遺物が確認されたのは3トレンチで溝状遺構のみであったが、過去の調査から遺跡の範囲が広がる可能性を秘めている。

(3) 事務文書

- 埋蔵文化財の発見届 菊教社第270号 平成18年11月22日付 ポリコンテナ1箱分
- 埋蔵文化財の保管届 菊教社第271号 平成18年11月22日付
- 埋蔵文化財の認定 教 文第2342号 平成18年12月4日付
- 確認調査結果 菊教社第174号 平成18年8月3日付
菊教社第272号 平成18年11月22日付



第5図 調査区位置図

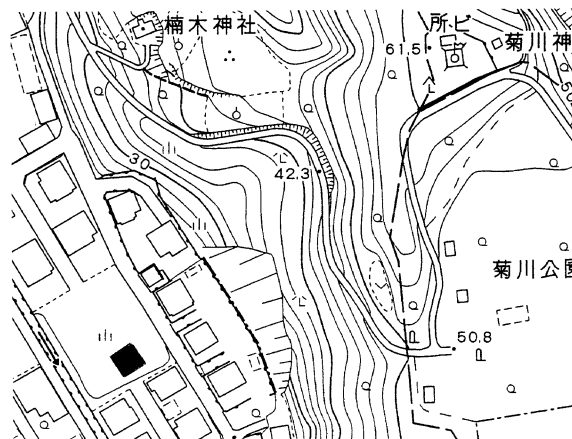


第6図 土層図

④堀田東遺跡

(1) 立地と現況

堀田東遺跡は、菊川市西方の堀田地区に所在し、西方川が形成した沖積地上に立地する。遺跡東側の河岸段丘は西方川の浸食により、西側が急傾斜の崖となっている。遺跡周辺は、東の段丘上に高田ヶ原遺跡や大徳寺古墳、西方川沿いの沖積地に白岩遺跡や豆尻遺跡など、市内でも注目すべき弥生から古墳時代を中心とした遺跡が集中する一帯でもある。今回の調査は、資材置き場を宅地整備化するための開発に伴うものである。



第7図 位置図

(2) 調査成果

工事計画地の南端に東西方向に3m×2mの規模で調査区を設定した。70cmの盛り土の下にかつての水田面（旧耕作土）がある。旧耕作土の下は100cm以上攪乱されており、遺構・遺物は確認されなかった。

以上のとおり、今回の開発地点では現在の地表から2m程度下までは後世の攪乱により、遺構面が消失している可能性が高い。

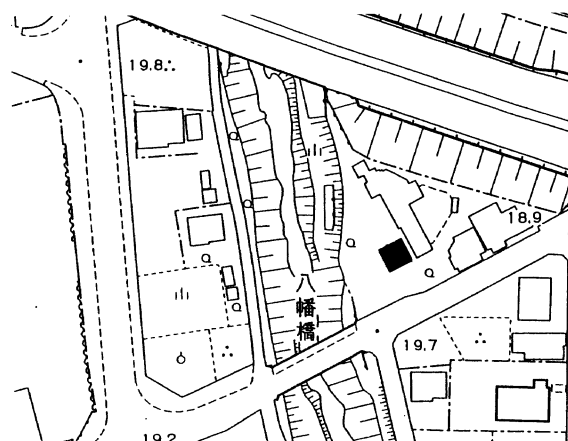
(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第177号 平成18年8月11日付

⑤白岩遺跡

(1) 立地と現況

白岩遺跡は、菊川市加茂地区の北端に所在する。周辺には東側の丘陵上に高田ヶ原遺跡や鹿島打上遺跡、大徳寺古墳など弥生から古墳時代を中心とする遺跡が位置する。調査地の東には西方川が南北に流れ、すぐ北には東名高速道路が東西に走る。開発地は、作業場から住宅への立て替えのために整地中である。



第8図 位置図

(2) 調査成果

調査区は、宅地建設予定地内に南北方向に2m×3mのトレンチを設定した。宅地整備による盛り土が100cmあり、その下が旧耕作土（水田面）となる。水田面の下は溝状の遺構となっており、覆土からは土器が出土したが、その他の遺構は確認されなかった。土地所有者によると、今回確認された溝は開発地が宅地化される前まで残っていたとの事であった。以上のとおり、今回は溝状遺構が確認されたが、当遺跡内での遺構、遺物の分布状況を確認するまでには至らなかった。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第211号 平成18年9月26日付

○埋蔵文化財発掘調査の通知 93条の1 平成18年9月20日付

○土木工事等のための発掘に係る指示 教文第1184号 平成18年10月13日付 立会調査

⑦周知外白岩段Ⅱ遺跡

(1) 立地と現況

白岩段Ⅱ遺跡は、縄文～弥生時代にかけての遺跡で、菊川市加茂の白岩段地区に所在する。調査地点は丘陵上に位置し、丘陵の東には西方川が流れ、沖積地を形成している。この丘陵上には白岩段Ⅰ遺跡、井成山遺跡といった同時代の遺跡が分布し、丘陵東側の沖積地には弥生～古墳期を主とした白岩遺跡や白岩下遺跡といった遺跡が展開する。

今回の調査は耐震型地下貯水槽の工事に伴う調査である。現況は大頭龍神社の境内となっている。

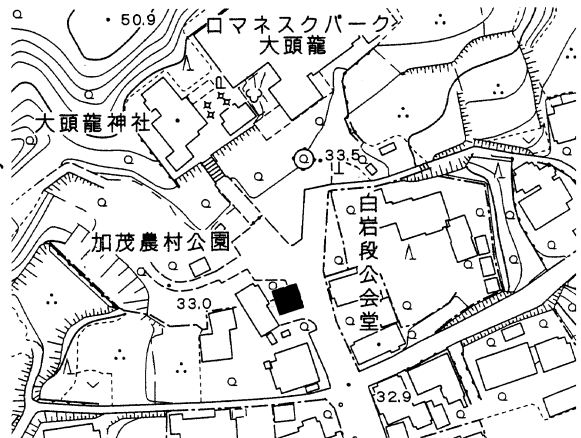
(2) 調査成果

開発地内に2m×3mのトレンチを設定し、機械と人力で掘削して調査を行った。調査地点の神社の表土の下は茶褐色土が20cmほど堆積し、その下が黄褐色土となっていたが、後世の攪乱により本来の覆土は見当たらなかった。今回の調査では、遺構・遺物ともに検出されなかった。

以上のとおり、今回の開発地点では遺跡の状況を把握する事はできなかった。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第253号 平成18年10月23日付

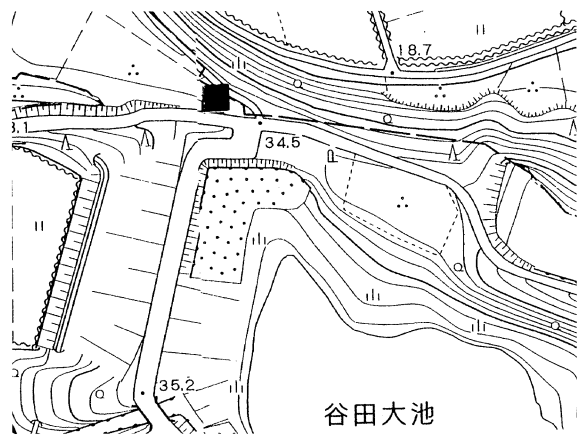


第9図 位置図

⑧周知外横地城跡

(1) 立地と現況

横地城跡は、15世紀前半東遠江の豪族横地氏が築いた中世の山城で、国指定史跡となっている。城は東の牧之原台地から延びる丘陵で構成されており、自然地形を利用した要害となっている。近年の調査で、城の構造が一部明らかとなる一方平野部に展開する居住空間との関連の中で、中世集落景観の解明に注目されている地域でもある。今回の調査は、横地城跡西部にある谷田ヶ大池の西側での携帯電話基地局建設に伴うもので、調査地の現況は茶畑となっている。



第10図 位置図

(2) 調査成果

開発予定地内に2m×3mのトレンチを設定した。茶樹栽培により、耕作土（黒褐色土）の下では黒褐色土と明黄褐色土が20cmほどかく乱されており、その30cm下が明黄褐色土となる。明黄褐色土の20cm下は明灰色土層となる。今回の調査では、遺物・遺構ともに確認されなかった。

以上のことから、今回の開発地には遺跡の影響が及ばないと考えられる。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第254号平成18年10月27日付

⑥・⑭段平尾Ⅱ遺跡

(1) 立地と現況

段平尾Ⅱ遺跡は、菊川市中内田の段平尾地区に所在する。調査地は、北から延びる丘陵の南端に位置し、東から南にかけての沖積平野には水田が広がる。丘陵の西側は稲荷部川が丘陵を侵食して谷を形成している。周辺には、市指定文化財の寛政七年御輿などを所有する平尾八幡宮や国学者栗田土満生誕碑等があり、菊川地域の近世文化を語る上においても重要な地域である。今回の調査は、地点1が菊川市安全課の耐震型地下貯水槽の埋設工事⑥、地点2が個人住宅建築に伴う確認調査⑭である。調査地点の現況は地点1が屋台小屋前の駐車場、地点2が住宅敷地として利用されている。

(2) 調査成果

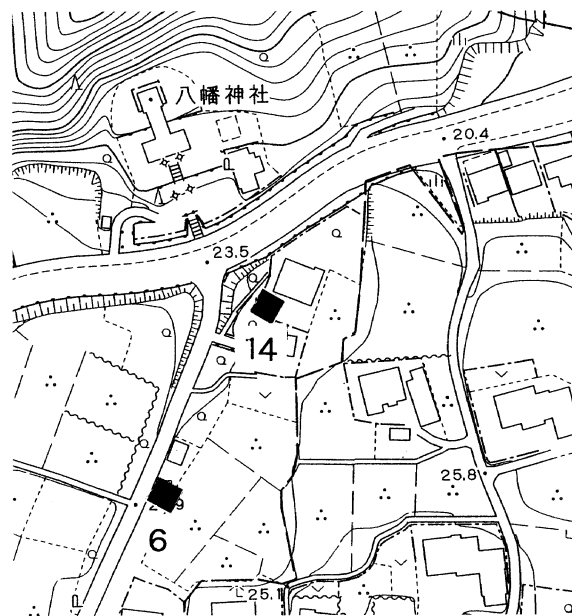
地点1は段平尾自治会の屋台小屋の駐車場に南北に2.5m×4mの調査区を設定した。表土は40～50cmほど堆積しており、その下に攪乱層が10～30cmほどみられる。攪乱層の下10～15cmの黄褐色土を含む黒茶褐色土層（黒ボク土）が包含層となっている。黒茶褐色土の下は黄褐色土層となる。黒茶褐色土層から土器片が10数点出土したが遺構は確認されなかった。

地点2では、開発区域内に2m×3mの調査区を設定し、重機と人力による掘削で調査を行った。表土は20～30cm堆積し、その下に茶褐色土が20～40cm程入る。茶褐色土の下の黒茶褐色土（黒ボク土）が包含層となり、その下の黄褐色土層が遺構面となる。遺構面まで掘り下げたところ、柱穴と方形に区画されたとみられる溝の一部が確認されたため、南に調査区を拡大した。拡大した調査区から新たに周溝状の溝が確認されたが、遺構の性格を把握するまでには至らなかった。

以上の結果より、地点1では後世の攪乱による影響が少なからず見られるが、遺物も多く出土しており、また、地点2においては遺構面が良好に残存しているため、今後の開発には慎重な対応が求められる。

(3) 事務文書

- 埋蔵文化財の発見届 菊教社第247号 平成18年10月18日付 ポリコンテナ1箱分
- 埋蔵文化財の保管届 菊教社第248号 平成18年10月18日付
- 埋蔵文化財の認定 教文第2340号 平成18年10月25日付
- 確認調査結果 菊教社第249号 平成18年10月18日付
- 埋蔵文化財発掘調査の通知 93条の1 平成18年10月17日付
- 土木工事等のための発掘に係る指示 教文第1332号 平成18年10月25日付 立会調査



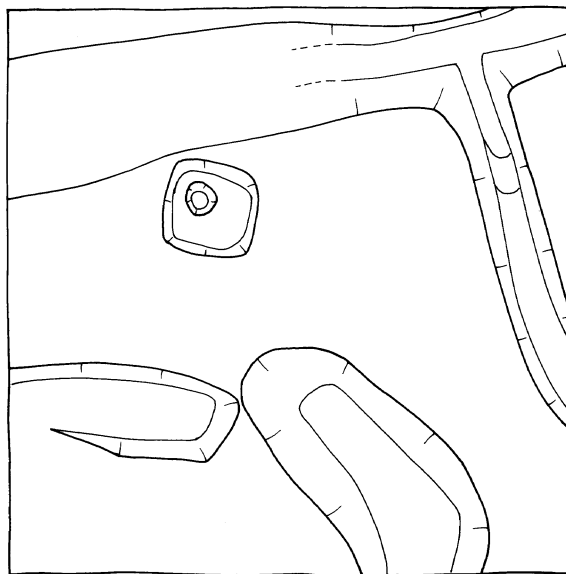
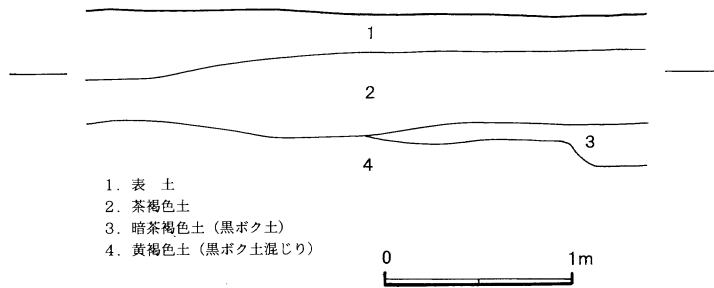
第11図 位置図



⑥地点 調査風景



⑥ 地点 調査区完掘



第12図 調査区平面図

⑨潮海寺門前町遺跡群

(1) 位置と現況

潮海寺門前町遺跡群は、潮海寺地区に所在する。当地区は菊川の形成した河岸段丘上に位置しており、今回の開発地は段丘のほぼ中央にあたる。地区周辺は、地名の由来ともなっている潮海寺薬師堂を始め古代から中世にかけての寺院とそれに関連する遺跡が集中し、一帯が宗教空間となっている。開発地は宅地分譲のために整地されている。

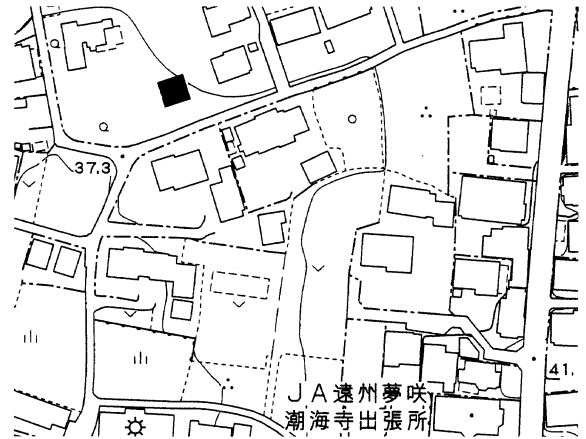
(2) 調査成果

対象区域内に南北方向に3m×4mのトレンチを設定した。今回の調査地点においては、宅地整備による盛り土と旧表土が60cmほどある下に、黒色土(黒ボク土)が50cm程度堆積している。黒色土層から遺物は検出されなかった。黒色土の下層が礫交じりの黄褐色土層となっており、この面より土坑状遺構の一部と土器が出土した。

以上の結果より、今回の地点で遺跡の所在を確認することができた。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第255号 平成18年10月28日付



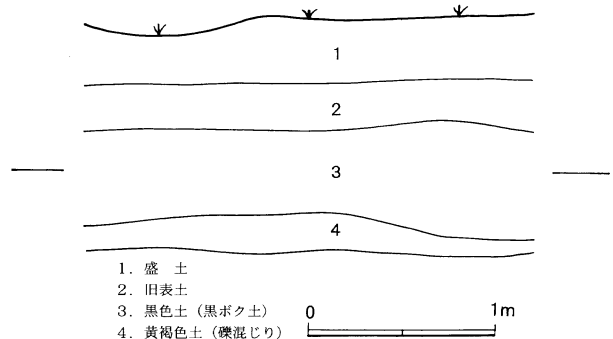
第14図 位置図



調査前

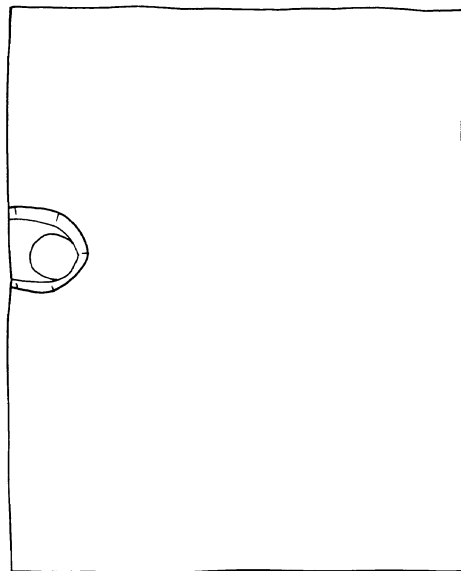


調査区完掘



- 1. 盛り土
- 2. 旧表土
- 3. 黒色土(黒ボク土)
- 4. 黄褐色土(礫混じり)

0 1m



第13図 調査区平面図

⑩権左衛門遺跡

(1) 位置と現況

権左衛門遺跡は、菊川市半済字権左衛門を中心に展開する。河川改修により現在は遺跡中央部を流れる菊川も、かつては大きく蛇行して流れており、その流れの形跡を東岸の三日月状の池に見ることができる。今回の調査地は、菊川西岸の堤防の隣接地で、畑地が埋め立てられている。

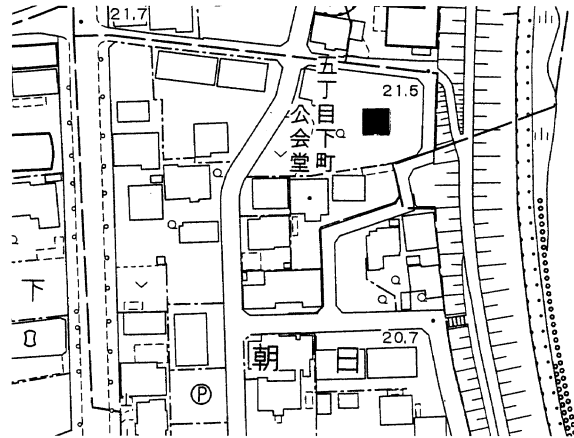
(2) 調査成果

調査は、開発予定地に南北方向に2 m×3 mのトレンチを設定し、重機で掘削したのちに人力で精査した。調査区では、約80cmの盛り土がある下に、黄褐色砂質土が10cm堆積している。この層から遺物は確認されなかった。黄褐色砂質土の下は砂利層と砂層が交互に混ざる層が100cm以上堆積する。

この土層状況から、今回の確認調査地点は河川敷であることが明らかとなった。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第277号 平成18年10月27日付



第15図 位置図

⑪上ノ段遺跡

(1) 位置と現況

上ノ段遺跡は、菊川市吉沢の丘陵上に所在する。遺跡のすぐ北は東海道本線が走り、東には河城小学校がある。調査地点は、従来は宅地であったが、県道工事により宅地が移転し、現在は整地されている。

(2) 調査成果

開発地域内に2 m×3 mのトレンチを設定し、調査を行った。今回の調査地点においては、2～5cmの表土の下が地山（岩盤層）となっており、遺跡の所在は確認されなかった。

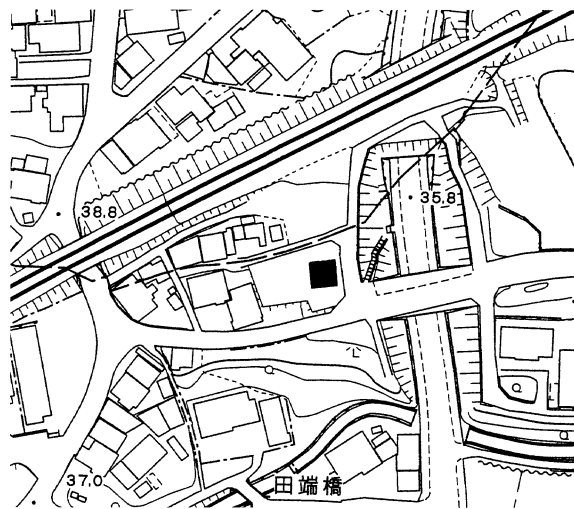
以上のとおり、今回の調査地点では後世の開発により岩盤まで削平されてしまっていたが、周辺の宅地には開発が及んでいないところも残っており、今後の開発を注視していく必要がある。

(3) 事務文書

○確認調査結果 菊教社第282号 平成18年11月28日付

○埋蔵文化財発掘調査の通知 93条の1 平成18年11月22日付

○土木工事等のための発掘に係る指示 教文第1596号 平成18年12月5日付 立会調査



第16図 位置図

⑮三沢西原遺跡

(1) 立地と現況

三沢西原遺跡は、菊川市中央部にあたる横地地区の三沢字西原の牧之原台地から西に延びる河岸段丘上に立地し、現在はその地形を利用した茶園が広がっている。横地地区は、旧石器・縄文から弥生、古墳、古代、さらに国指定史跡横地城跡に代表される中世まで各時代における主要な遺跡が分布しており、市内でもとくに歴史豊かな一帯である。当遺跡では、旧石器・縄文・弥生・古墳の各時代の遺構面が確認されており、周辺地域の歴史を語る上で重要な遺跡である一方、茶園の改植等により遺構面の消失が進み、埋蔵文化財の保護についても考えさせてくれる。今回の調査は、農道整備事業に伴う確認調査で、道路拡幅及び舗装工事が地下遺構に与える影響を把握するためのものである。調査区は、現道部に計10箇所トレンチを設定した。

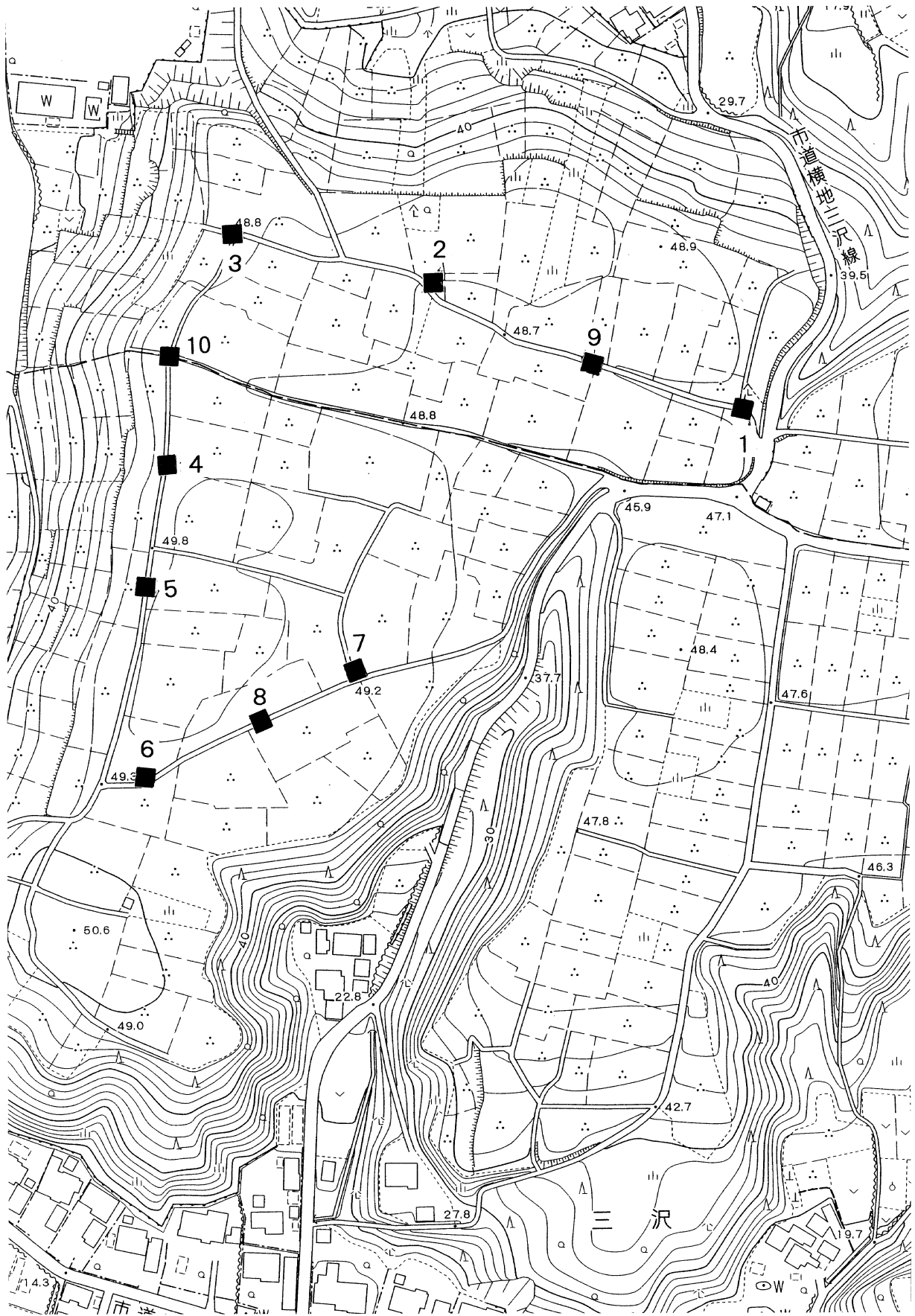
(2) 調査成果

今回の調査において現況道路部分が耕作等の影響をほとんど受けていなかったのは、1・7・8トレンチの3箇所である。1トレンチは数cmほどの表土の下が黒褐色土（黒ボク土）からなる包含層となっており、その下の黄褐色粘質土層で溝状の遺構の一部が確認された。7・8トレンチは10cmほどの表土の下が包含層となっており、その下層も良好な状態で保たれている。7トレンチでは土壌状の遺構が確認されたが、今回は遺構の確認に留めた。8トレンチでは遺構は確認されなかった。2・3・6・10トレンチは、表土の下10～20cmほどは耕作等により攪乱されているが、その下層は安定した層となっている。2トレンチの道路部分は表土のすぐ下が地山となっており、遺構面は確認されなかった。3トレンチからは黄褐色粘質土層から溝状遺構が検出した。6トレンチでは茶畑部分は地山付近まで攪乱されていたが、道路部分からは拳大の礫からなる厚さ15cmほどの礫群が黄褐色粘質土の中で確認された。この礫群は、今回の調査では6トレンチのみで確認された。10トレンチは茶畑部分と道路部分の大半が攪乱を受けており、土層が保たれていたのは3分の1程度であった。土層断面からは溝状の遺構が確認された。4・5・9トレンチでは、道路部分・茶畑部分ともに地山付近まで攪乱され遺構面は消失していたが、4トレンチからは攪乱された下から土器が出土している。9トレンチは、道路部分は表土の数cm下で地山となっており、茶畑部分はさらに深く掘り込まれていた。

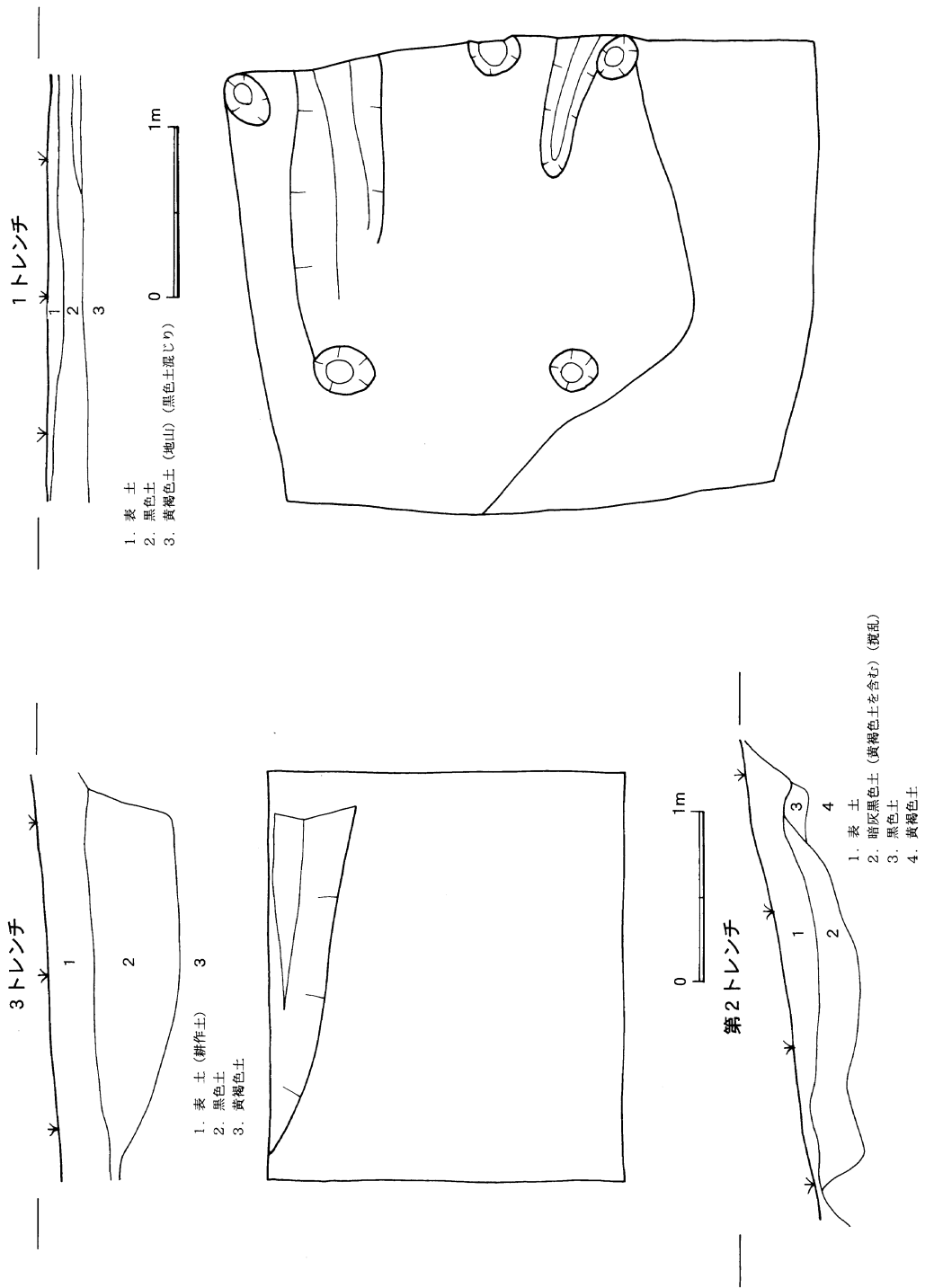
以上のように、今回の調査では、茶畑の耕作等により埋蔵文化財の地下での保存状態が場所によって大いにばらつきがあることが明らかとなった。特に段丘西側の道路は茶栽培の機械化が進んでから造られたため、それ以前の改植時の重機等による地下遺構への影響が非常に大きく、地山まで攪乱されてしまっているところが多い。他の地点でも茶畑部分のほとんどは重機等による天地返しの影響を少なからず受けており、遺構面が消失してしまっているところが大部分である。道路部分は全体的に比較的良好な状態で保存されているが、表土の流出や開墾時の影響により、一部では遺構面が消失している。

(3) 事務文書

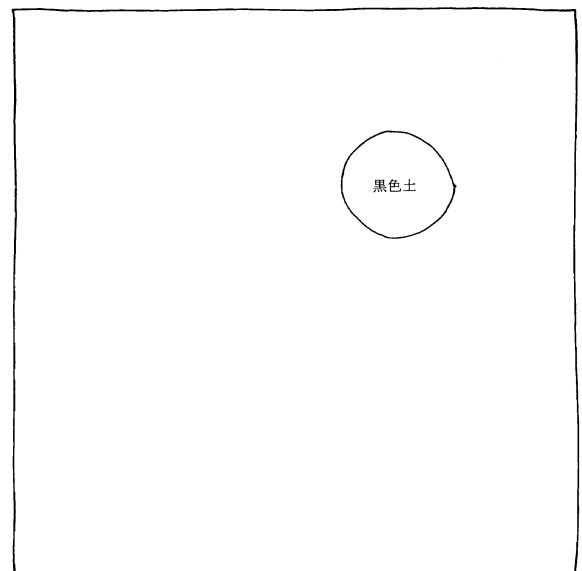
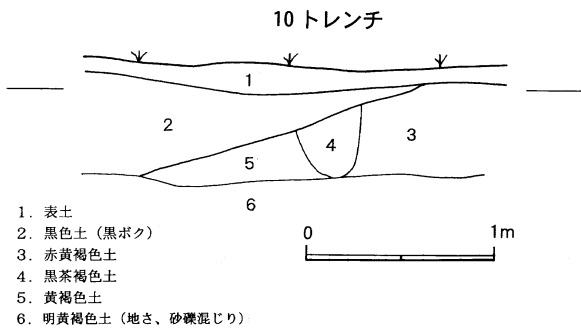
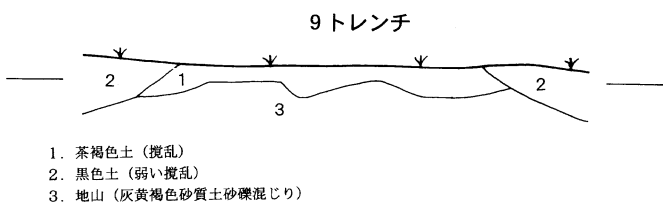
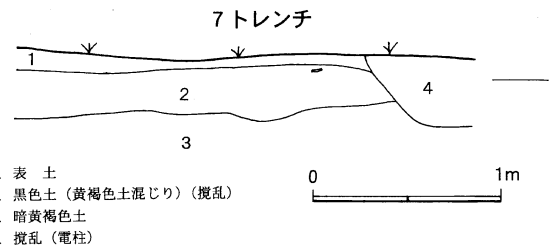
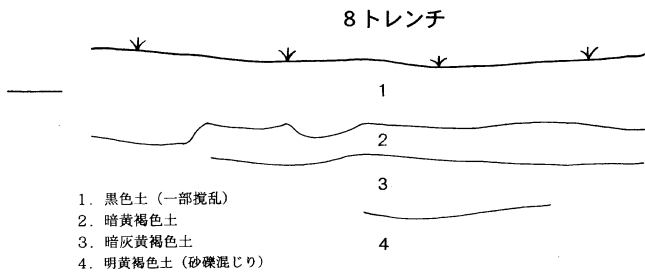
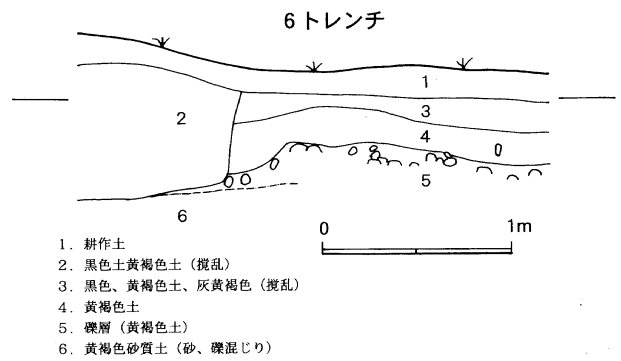
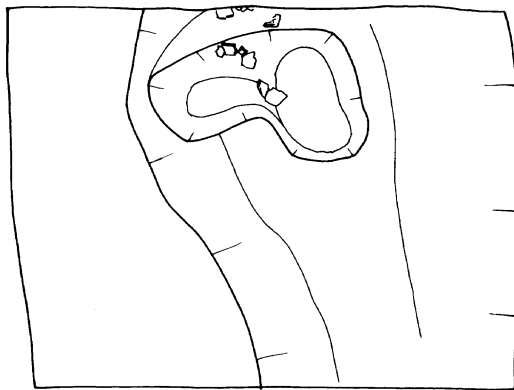
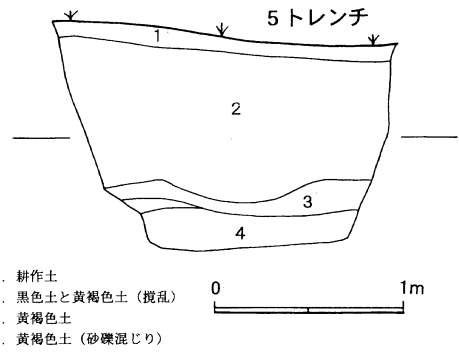
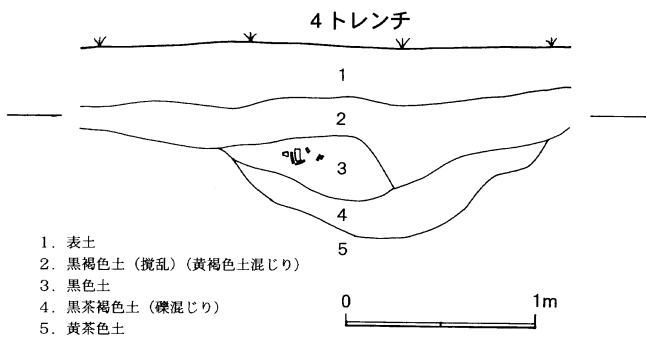
- 埋蔵文化財の発見届 菊教社第378号 平成19年3月27日付 ポリコンテナ1箱分
- 埋蔵文化財の保管届 菊教社第379号 平成19年3月27日付
- 確認調査結果 菊教社第335号 平成19年3月27日付



第17図 調査区配置図



第18図 1・3トレンチ土層図



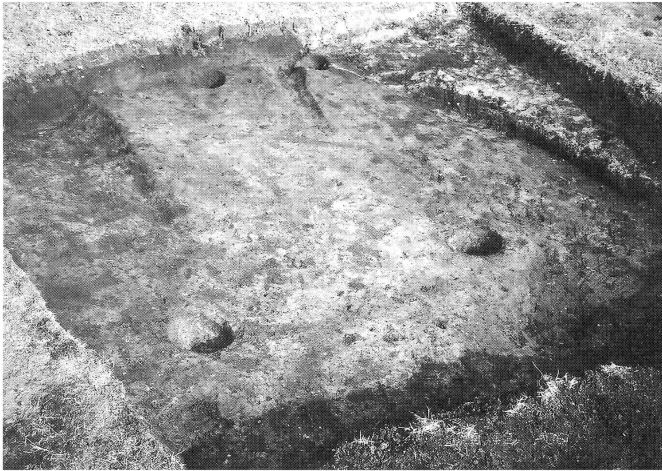
第19図 4～10トレンチ土層図



調査風景



3 トレンチ完掘



1 トレンチ完掘



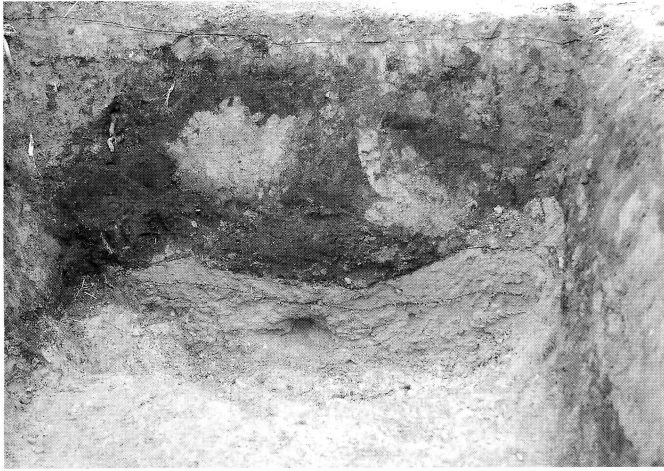
4 トレンチ遺物出土



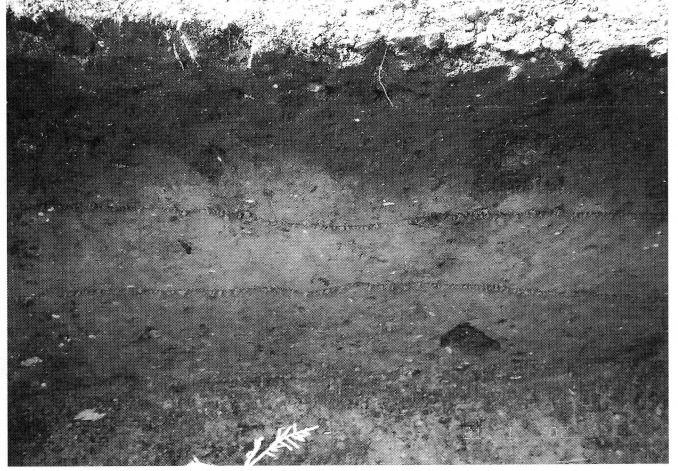
2 トレンチ土層



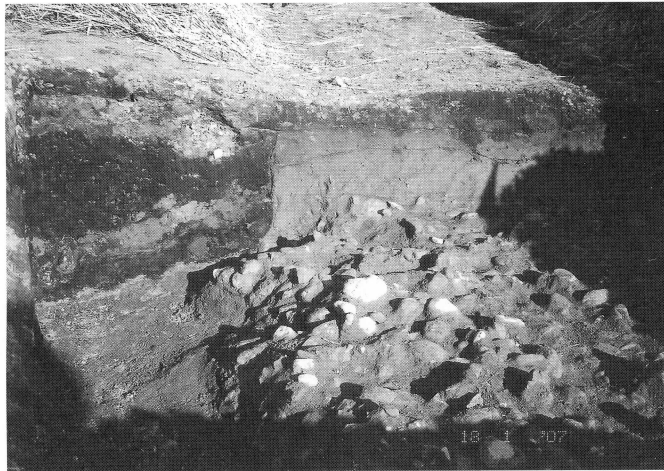
4 トレンチ完掘



5 トレンチ完掘



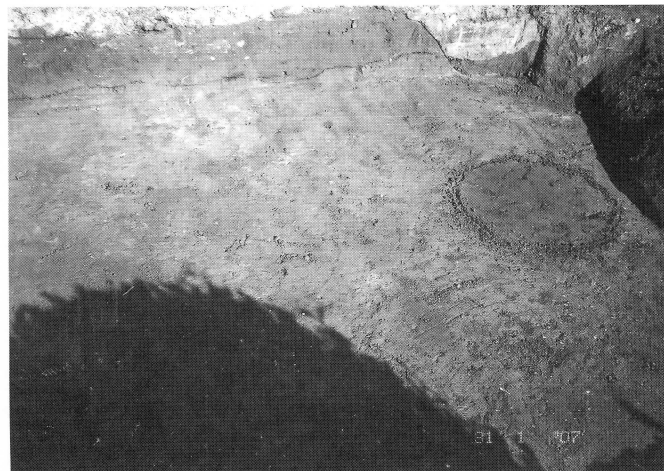
8 トレンチ土層



6 トレンチ遺構検出



9 トレンチ土層



7 トレンチ完掘



10 トレンチ土層

⑯周知外赤土政所遺跡

(1) 立地と現況

赤土政所遺跡は、菊川市赤土字政所に所在する。調査区周辺は、丹野川によって形成された沖積地の広がる農村地帯である。今回の調査は共同住宅建築に伴う試掘調査である。

(2) 調査成果

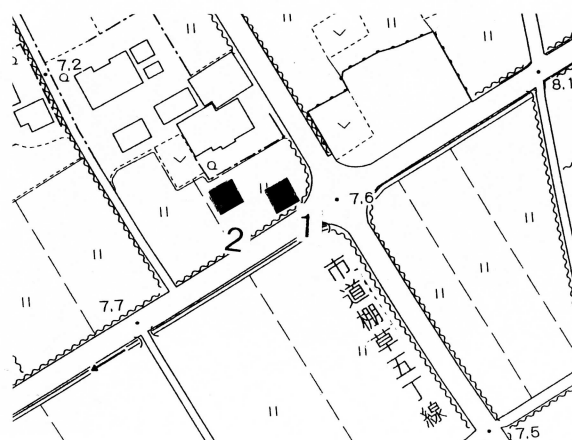
対象区域内に3m×3mのトレンチを2箇所設定し調査を行った。1トレンチの層位は、20cmの耕作土Ⅱ層黄褐色砂質土層、Ⅲ層灰茶褐色砂質土層に分布される。検出した遺構は、溝で8点の土器片が出土した。2トレンチでは、1トレンチの土層と比べると管鉄が多くみられたが、ほぼ同一層位であった。遺構は土坑状の遺構が検出したが、今回の調査区ではその性格を把握するまでには至らなかった。また、土坑からの遺物は出土しなかった。

以上のとおり、開発地点は後世の攪乱を受けているものの、下層では遺構や遺物が確認されているため周知の範囲が当地点まで広がっていると考えられる。

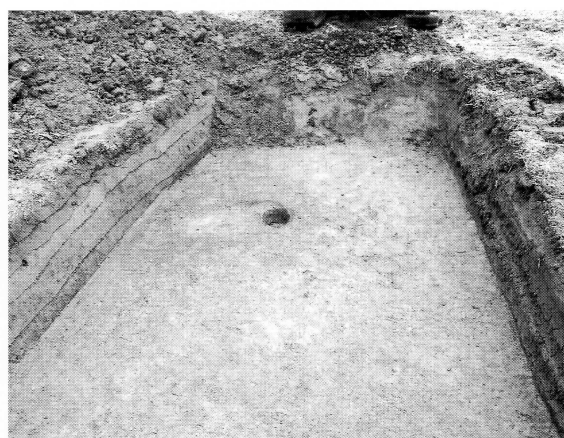
(3) 事務文書

○確認調査結果

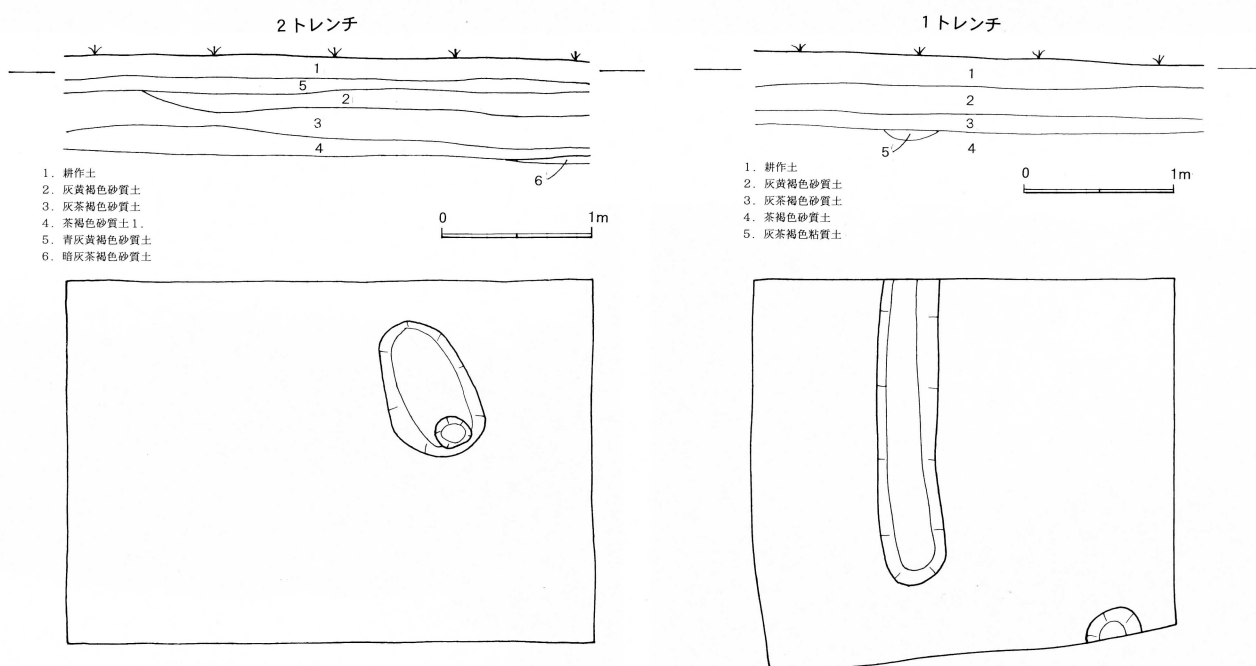
菊教社第377号 平成19年2月14日付



第20図 位置図



調査区完掘



第21図 平面図

⑬・⑱宮ノ西遺跡

(1) 立地と現況

宮ノ西遺跡は、菊川市加茂字宮ノ西に所在し、菊川と西方川に挟まれた沖積地上に展開する。付近一帯は、数年前までは水田の間に宅地が点在していたが、区画整理事業の進展と、遺跡中央部を南北に通る県道掛川浜岡線バイパスの開通により、急速に開発が進んでいる。今回の調査は、区画整理事業に伴う試掘調査が1ヶ所(⑬地点)、農地転用に伴う調査が⑱地点の2・3トレンチである。現況は、1トレンチが店舗の駐車場、2トレンチが茶畑、3トレンチが畑となっている。

(2) 調査成果

1トレンチは、東西方向に3m×5mの規模で調査を行った。約60cmの盛り土の下に、旧耕作土(茶畑)が50cmほどあり、その下の茶褐色土及び黄褐色土の層で旧河川の一部が検出され、覆土より土器が数点出土した。今回の調査では河川以外に遺構は確認されなかった。

2トレンチは3m×3mで、旧耕作面から125cm程度の盛土がなされている。旧耕作土は5~10cmほど堆積しその下から溝が検出した。この溝から近世陶磁器が出土している。

3トレンチは、2トレンチから100m程南にあたり、南北方向に2m×3mの調査区を設定し60cmの盛土の下に旧耕作土が20~30cm程堆積し、その下から溝の一部が確認された。

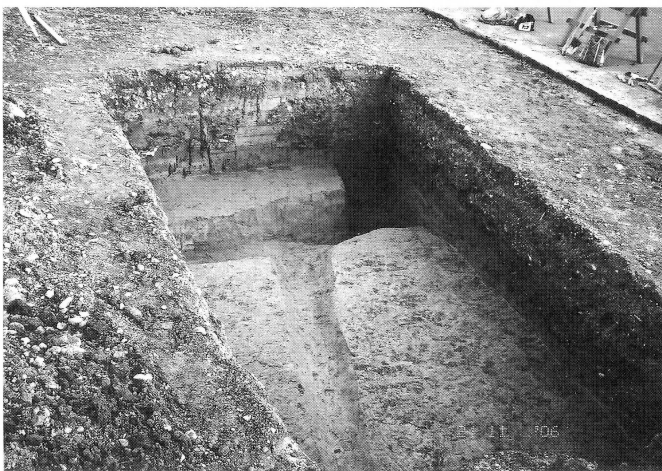
以上のことから、今回の調査では⑬地点は旧河川跡とみられ、遺跡の広がり確認されなかった。2・3トレンチからは近代まで残っていたとみられる溝が確認された。今年度実施した発掘調査でもこの溝は確認されており、トレンチには遺跡の影響が及んでいると考えられるが、溝が掘り込まれているため、下層の遺構面が残っていない可能性が高い。

(3) 事務文書

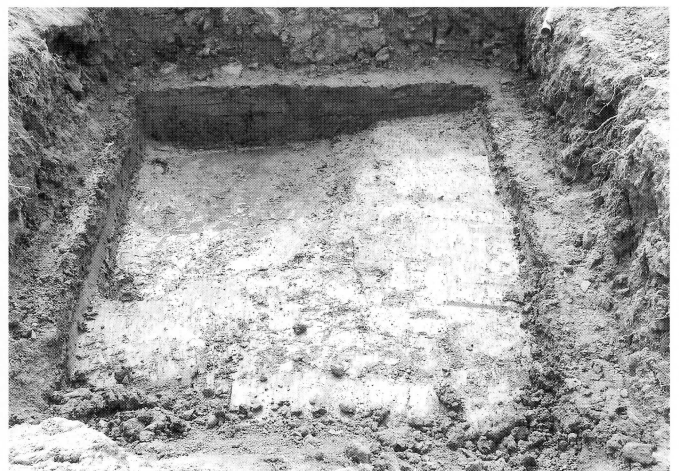
- 埋蔵文化財の発見届 菊教社第378号 平成19年3月29日付 ポリコンテナ1箱分
- 埋蔵文化財の保管届 菊教社第379号 平成19年3月29日付
- 確認調査結果 菊教社第377号 平成19年2月14日付



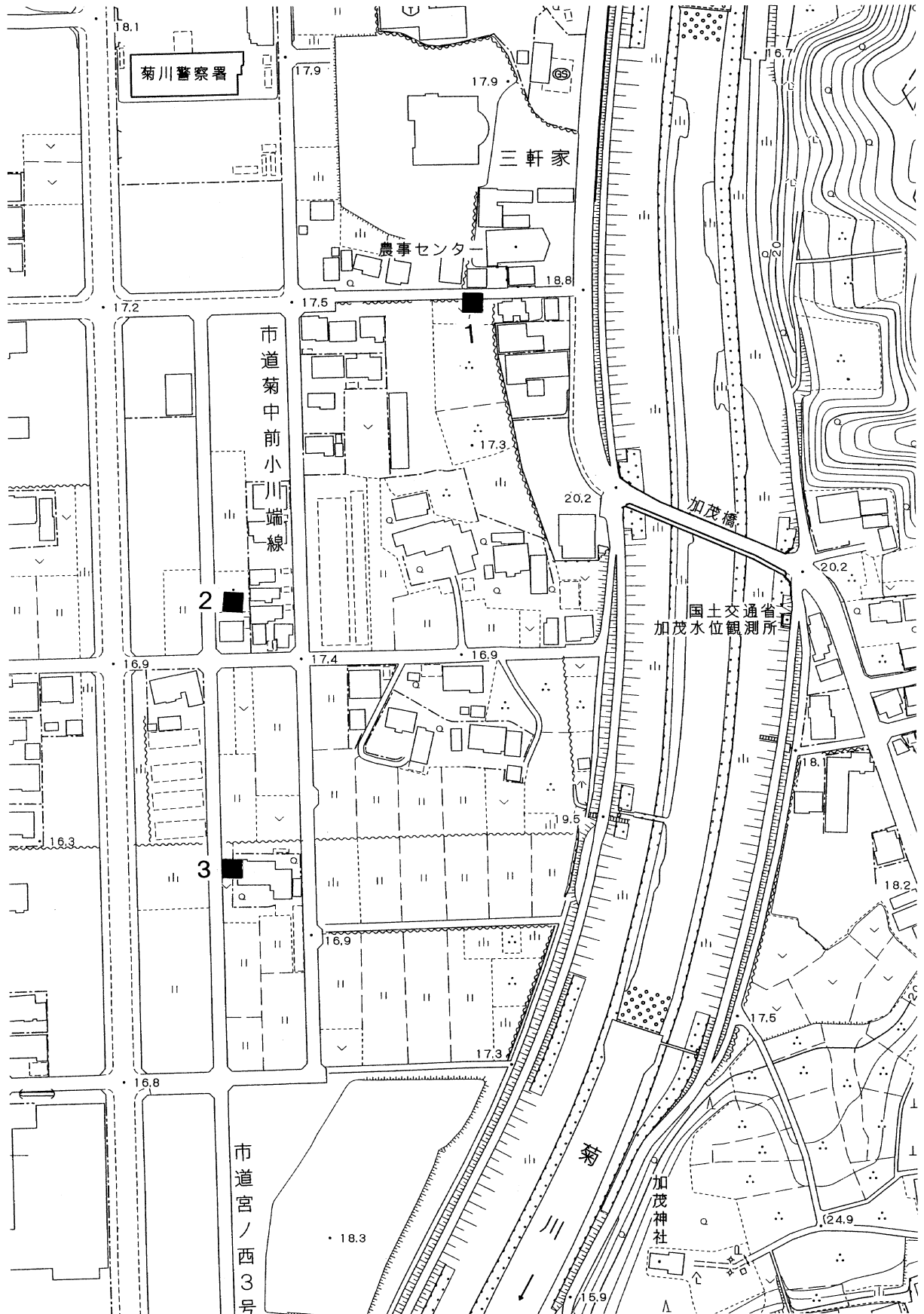
調査風景



⑬地点調査区完掘

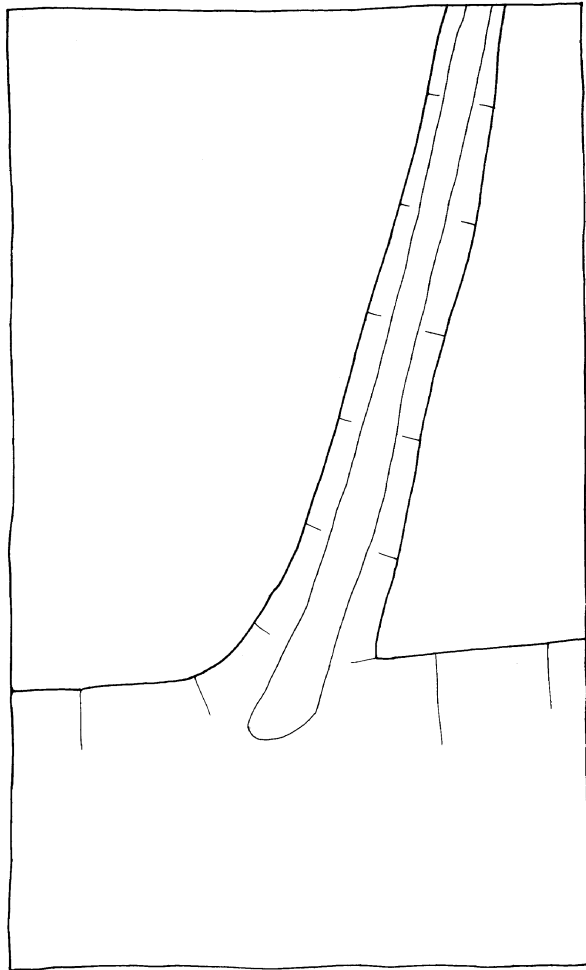
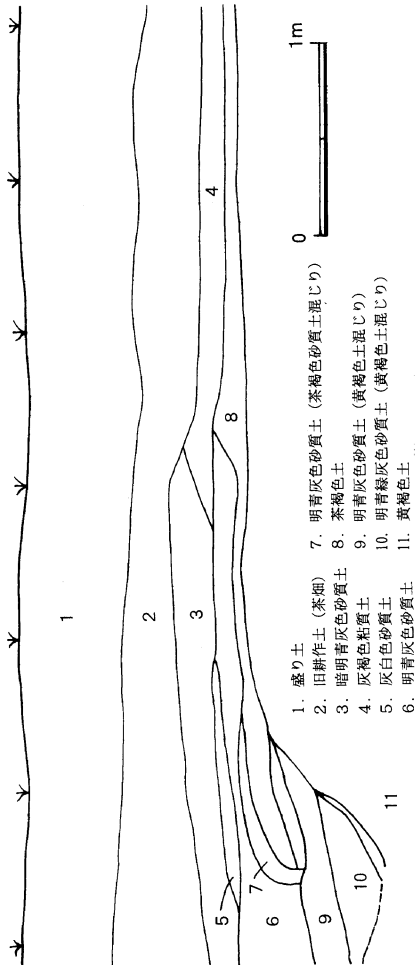


⑱地点調査区完掘

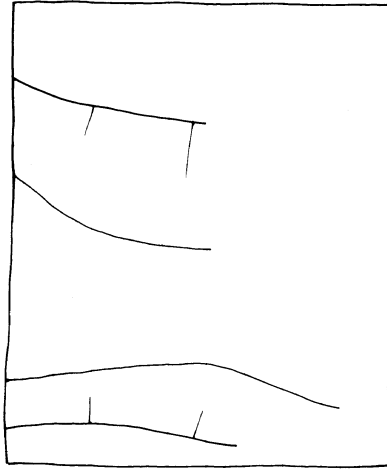
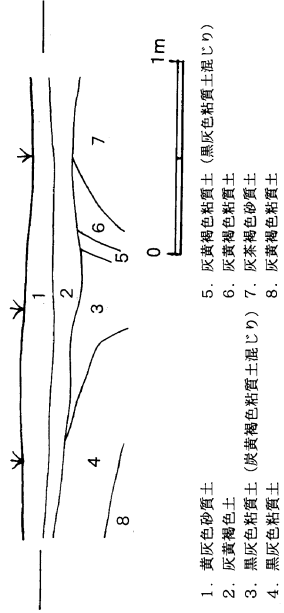


第22図 位置図

1 トレンチ



2 トレンチ



第23図 調査区平面図

第2表 確認調査による遺物一覧表

(数量=箱単位)

番号	遺跡名	所在地	調査期間	面積(m ²)	石器	土器	木製品	金属品	その他	計
①	鹿島打上遺跡	半済	H18.6.29	12		1		1点		2
②	横地城下遺跡群	東横地	H18.7.12	6						
③	周知外長池橋遺跡	加茂	H18.7.28	8		1				1
④	堀田東遺跡	西方	H18.8.11	6						
⑤	白岩遺跡	加茂	H18.9.21	6		1				1
⑦	段平尾Ⅱ遺跡	中内田	H18.10.12	10		1				1
⑧	白岩段Ⅱ遺跡	加茂	H18.10.19	6						
⑥	横地城跡	東横地	H18.10.25	6						
⑨	潮海寺門前町遺跡群	潮海寺	H18.10.26	6		1				1
⑩	権左衛門遺跡	朝日	H18.10.27	6						
⑪	上ノ段遺跡	吉沢	H18.11.1	6						
⑫	周知外長池橋遺跡周	加茂	H18.11.16	45		1				1
⑬	知外宮ノ西遺跡	加茂	H18.11.24	6		1				1
⑭	段平尾Ⅱ遺跡	中内田	H18.12.19	9		1				1
⑮	三沢西原遺跡	三沢	H18.12.20 ~H19.2.18	63	2点	1				2
⑯	周知外赤土政所遺跡	赤土	H19.1.19	18		1				1
⑰	周知外長池橋遺跡	加茂	H19.2.20,21	12		1				1
⑱	宮ノ西遺跡	加茂	H19.2.7	12		1	1			1



市内遺跡確認調査報告書

編集・発行 静岡県菊川市下平川6245
静岡県菊川市教育委員会
TEL 0537-73-1130

印刷 (株)ケーアンドワイ
発行年月日 平成19年3月29日